

2022年3月期第2四半期 機関投資家・アナリスト向け説明会 主な質疑応答

<新経営ビジョンについて>

Q1 小田急電鉄鉄道業の収支構造改革における固定費削減として、効率的なダイヤの検討や駅務機器のダウンサイジング等を進めていくと説明があったが、これらの施策による恒常的な削減目標を教えてください。

- ・ 現時点では各施策の詳細について検討を進めている段階であり、具体的な削減目標は算定中であるが、トップラインが平時比△15%でも利益を生み出せるよう変革を進めている。
- ・ なお、2021年度の費用削減額については、当社グループ全体で約520億円、当社費用のうち固定費削減額は約100億円を見込んでいる。このうち、恒常的な費用削減だけを抜き出すのは難しいが、引き続き足元の費用削減についても並行して検討していく。

Q2 事業ポートフォリオの再構築のなかで、既存ビジネスの深化を進めていくと説明があったが、新型コロナウイルスの影響で特に業績の厳しいホテル業についてどのような改革を検討しているのか。

- ・ ホテル業全体で徹底的な構造改革を推進している。具体的には、ホテル小田急において、複数の飲料店舗等の閉鎖や、希望退職による組織・要員のスリム化、固定費の削減を行ってきた。
- ・ シティホテルについては、インバウンド需要の早期回復が見込めず、特に厳しい状況が続いているが、引き続き国内需要の獲得に努めていく。

Q3 有利子負債のコントロールについて、資産売却で具体的に計画しているものはあるのか。

- ・ 政策保有株式については、昨年度から売却を進めており、2021年度第2四半期時点で投資有価証券売却益を75億円計上するなど、引き続き保有意義の検討を進めていく。
- ・ 不動産については、現在検討を進めているものの、具体的にお知らせできる段階にない。

<新宿駅西口地区開発計画について>

Q4 新宿駅西口地区開発計画の着工に伴い、小田急百貨店新宿店が2022年9月末日をもって本館での営業を終了することだが、来期の業績への影響はどの程度になるのか。

- ・ 2022年10月以降、新宿店は新宿西口ハルクを改装して「食品」「化粧品」「インターナショナルブティック」を中心に営業を継続する予定であるが、収益規模を含め詳細は検討中であるため、現時点で来期の業績への影響についてお答えすることは難しい。

**Q 5 新宿駅西口地区開発計画の資金調達の方法について教えてください。**

- ・ 新宿駅西口地区開発計画については、2022年10月以降の着工を予定しているが、投資の大半を占めると想定される新築工事は、着工からさらに先となることから、これから2～3年以内で巨額の資金調達が必要になることはなく、財務体質が急激に悪化する想定はない。計画全体の財務負担については、全社的な構造改革や投資配分の見直しを注視しながら、さまざまな手法を検討しているところである。

**<WOOMSについて>**

**Q 6 WOOMSが収益化できるのはいつ頃、どの程度と考えているのか。**

- ・ 廃棄物市場は、収集運搬から処理まで含むと約6兆円の大きな市場である。加えて、環境意識の高まりからリサイクルの市場も拡大していくことが予想される。本事業が、当社沿線を起点に全国を視野に資源・廃棄物の収集運搬のインフラとしての役割を担うことを目指していきたい。収支については、3年後の黒字化を見込んでいる。

以 上

※ 本資料は、説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社がまとめたものであることをご了承ください。